集約

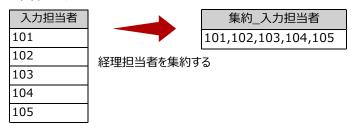
フィールドのレコードを","区切りで一つのレコードとして出力する

◇機能

《集約》は、集約対象フィールドのレコードを","区切りで一つのレコードとして出力する機能です。

また、「連携テーブル」を指定することにより集約結果を連携テーブルに結合して出力することができます。

<集約テーブル>



<連携テーブル>

売上番号	入力担当者
10001	101
10002	101
10003	102
10004	103
10005	999
10006	105

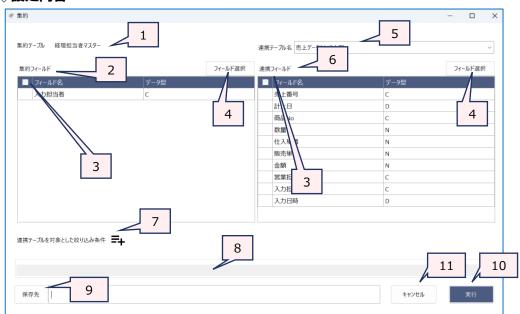
売上番号	入力担当者	集約_入力担当者
10001	101	101,102,103,104,105
10002	101	101,102,103,104,105
10003	102	101,102,103,104,105
10004	103	101,102,103,104,105
10005	999	101,102,103,104,105
10006	105	101,102,103,104,105

連携テーブルを指定して、入力担当者を集約する

◇メニュー

《加工》-《集約》

◇設定内容



- 1. テーブル名: 操作の対象となっているテーブルが表示されます。
- 2. 集約フィールド(必須)

: フィールドの一覧で、集計するフィールドをクリックして選択します。

- フィールドは、複数選択できます。
- 選択した順に番号が表示され、表示する列の順番が決まります。
- 3. フィールドの全選択/全解除

: チェックボックスのオン/オフで、すべてのフィールドの選択/解除が行えます。

4. 《フィールド選択》ボタン

:「フィールドの選択」画面を開き、フィールドの選択・並び順の変更を行うことができます。

5. 連携テーブル (仟意)

: 集約結果を結合するテーブルを指定します。

- 連携テーブルは操作対象以外のテーブルを指定できます。
- 6. 連携フィールド (連携テーブルを指定する場合は必須)

: 連携テーブルから出力するフィールドを、フィールドの一覧からクリックで選択します。

- フィールドは、複数選択できます。
- 選択した順に番号が表示され、表示する列の順番が決まります。
- 7. IF条件(任意): 抽出条件を設定する場合は、「IF条件」に条件式を入力します。
- 8. 《式ビルダー》アイコン

:「IF条件 Iの条件式を入力するために、式ビルダーを開いて使用できます。

9. 保存先 : 実行結果の出力先となる新規テーブル名を入力します。

- テーブル名の長さは、64文字までです。
- ファイルの保存先は、プロジェクトが保存されているフォルダの「04 table フォルダです。
- 《保存先》ボタンで、保存するフォルダを変更できます。ただし、使用可能なフォルダは、プロジェクトが保存されているフォルダの「04_table」フォルダおよびそのサブフォルダのみです。

10. 《実行》ボタン: 実行します。

11. 《キャンセル》ボタン: 実行せず画面を閉じます。

◇操作ログ

OPEN "集計対象テーブル"

OPEN "連携テーブル" SECONDARY

COMPILE ON [集計フィールド1] [集計フィールド2] …またはALLFIELDS **FIELDS ON** [連携フィールド1] [連携フィールド2] …または **ALLFIELDS** <u>IF 条件式</u> **TO** 出力先